

スーパーマーケット景気動向調査

2014年6月調査結果(5月実績)

(6月20日公表)

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1.経営状況:「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」

スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ① 前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で調査
- ② 前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より調査開始

2.カテゴリー動向:「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」

スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ① 前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で調査 ※2014年4月実績より調査開始
- ② 各カテゴリーの好不調要因についてのコメント ※2014年4月実績より調査開始

経営動向調査 DI(Diffusion Index)の算出方法

回答構成比(%)に、以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1.景況感:「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ① 2~3か月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で調査
- ② 今後2~3か月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で調査

景況感 DI(Diffusion Index)の算出方法

回答構成比(%)に、以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0.0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

2014年6月20日

日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ
tokei@super.or.jp

I. 調査結果概況

前月の見通し判断に続き、現状判断も大幅に改善も、今後の方向感が見極めづらい状況

5月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は46.9と前月から+6.6と大幅な改善をみせた。現状判断、見通し判断共に全てのDIが前月比プラスとなっており、特に消費者購買意欲DIは、現状判断45.5（前月比+9.2）、見通し判断45.7（前月比+5.0）と改善幅が大きい。

経営動向調査では売上高DIが0.7（前月比+15.7）とプラス水準となり、同様に収益DIも5.8（前月比+14.4）と大幅に改善した。来客数DIは-7.6（+7.5）とマイナス水準で推移しているが、客単価DIが7.8（前月比+9.8）とプラス水準に戻ったことが好調要因として大きい。仕入原価DIは共に小幅に上昇しているが、販売価格DIも高水準を維持しており、客単価DIを押し上げている。

景況感DIでは、前月見通し判断が大きく反発をみせたが、当月は現状判断が大幅な改善をみせ、同水準までの回復をみせた。一方で判断の分かれ目となる50は依然として下回っており、さらなる回復が待たれる。ただし、両判断が同水準となったことで方向感が見極めづらい局面となっており、今後の基調判断については、次月以降の結果をふまえ慎重に判断していく必要がある。

景況感調査



経営動向調査

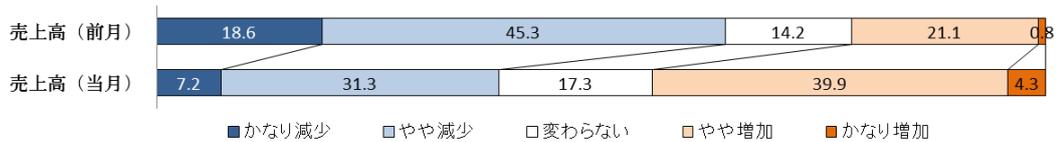


() 内は前月DIとの増減（赤字はDI減少）

I. 調査結果詳細 1. 経営動向調査

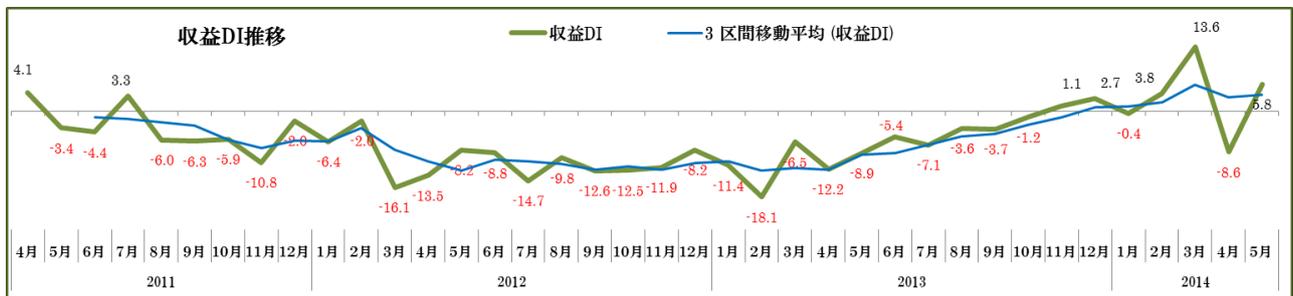
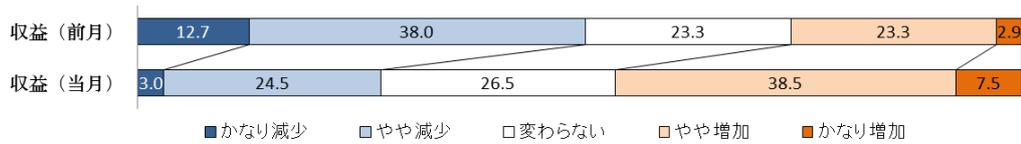
①売上高 DI

消費税率引き上げの影響も落ち着きを見せ、プラス圏まで改善



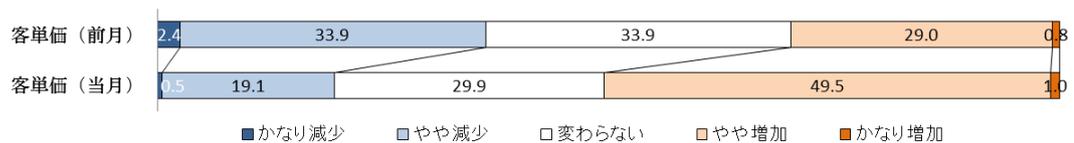
②収益 DI

消費税率引き上げの影響も落ち着きを見せ、プラス圏まで改善



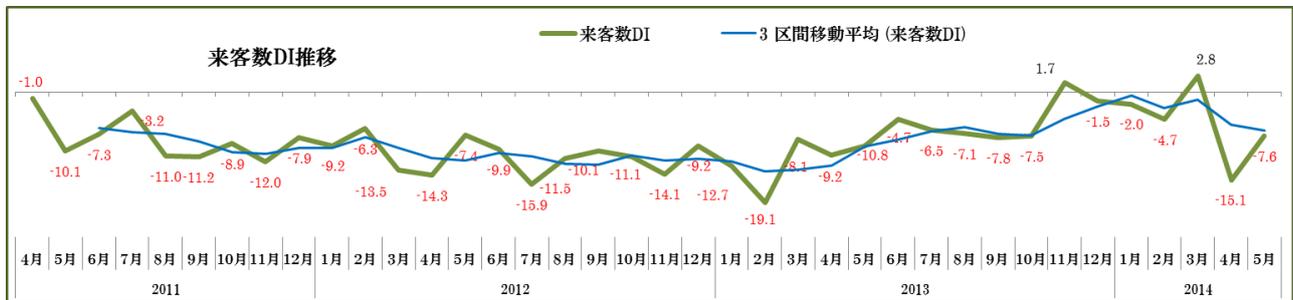
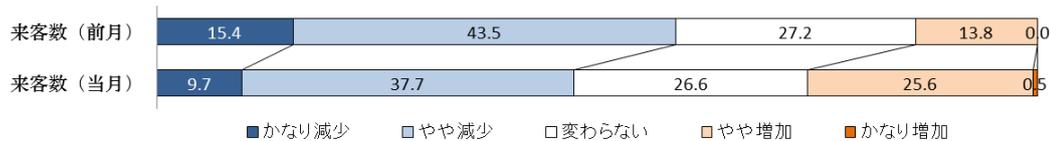
③客単価 DI

消費税率引き上げの影響も落ち着きを見せ、プラス圏まで改善



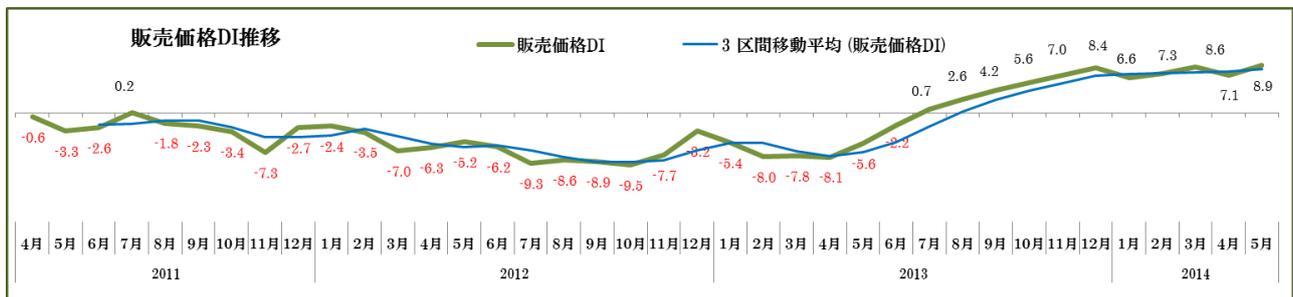
④来客数 DI

当月やや反発も回復の勢いは弱く、方向感の定まらない動き



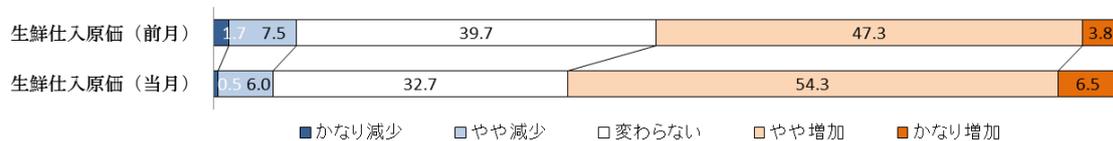
⑤販売価格 DI

引き続きプラス圏を維持しており、高水準で横ばい傾向



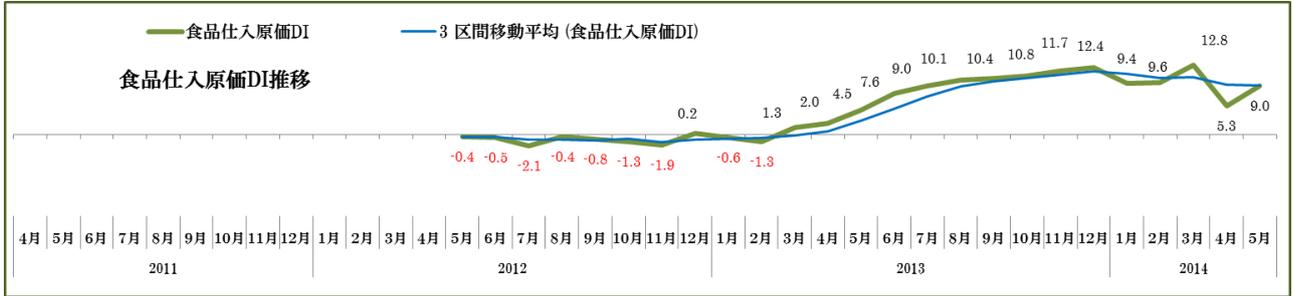
⑥生鮮仕入原価 DI

12月をピークにゆるやかに下降傾向も当月はやや上昇



⑦食品仕入原価 DI

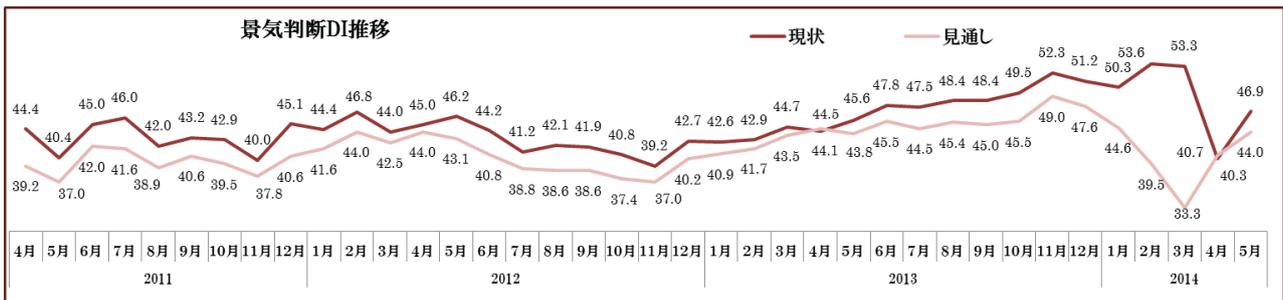
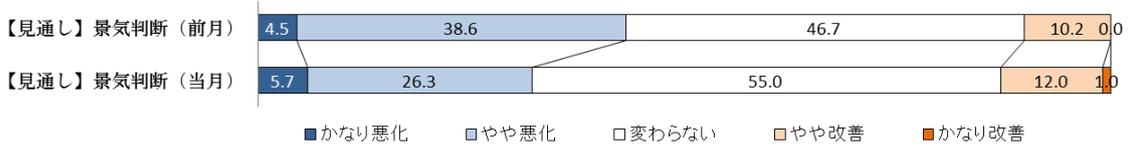
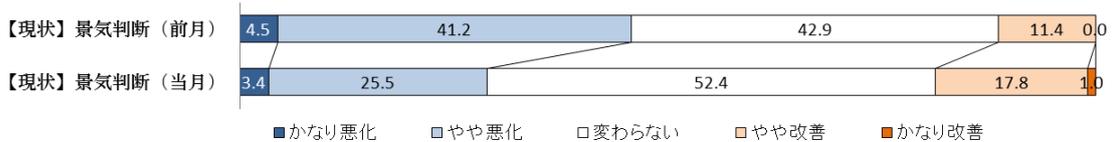
12月をピークにゆるやかに下降傾向も当月はやや上昇



2. 景況感調査

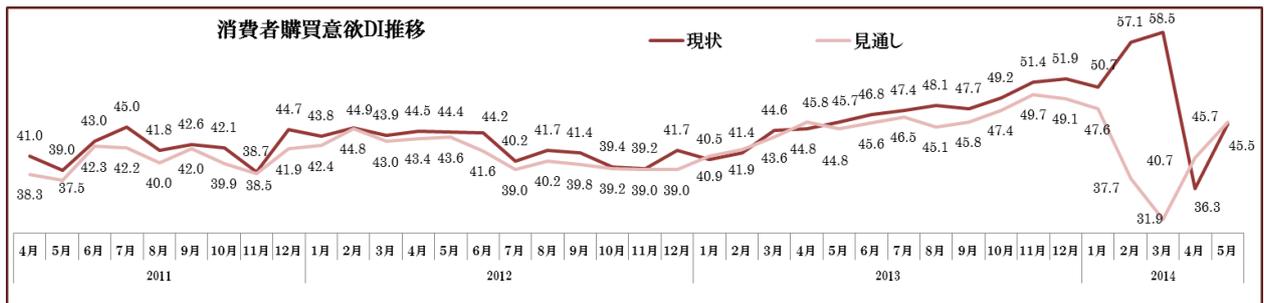
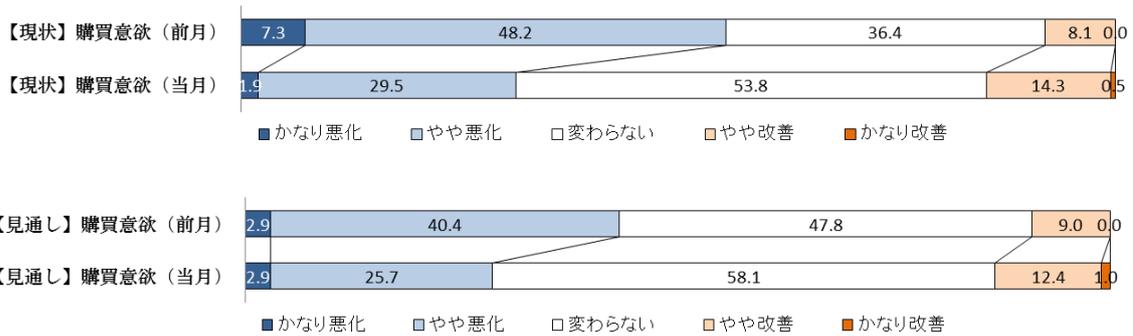
①景気判断 DI

現状判断は大きく改善をみせるも、見通し判断は小幅な改善にとどまる



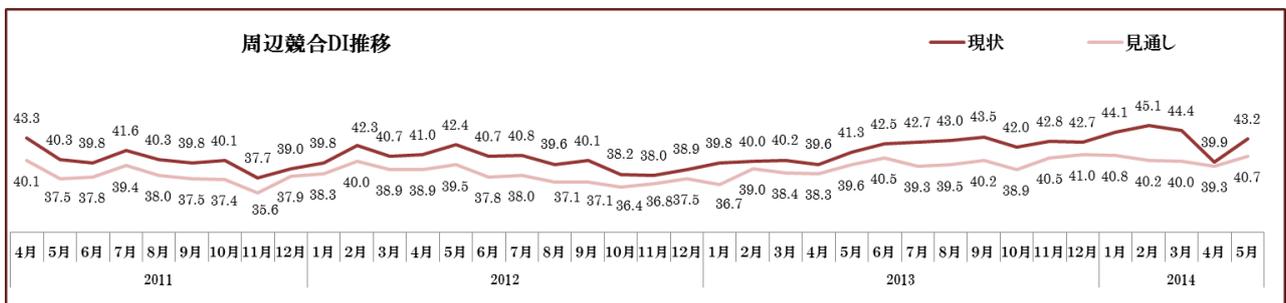
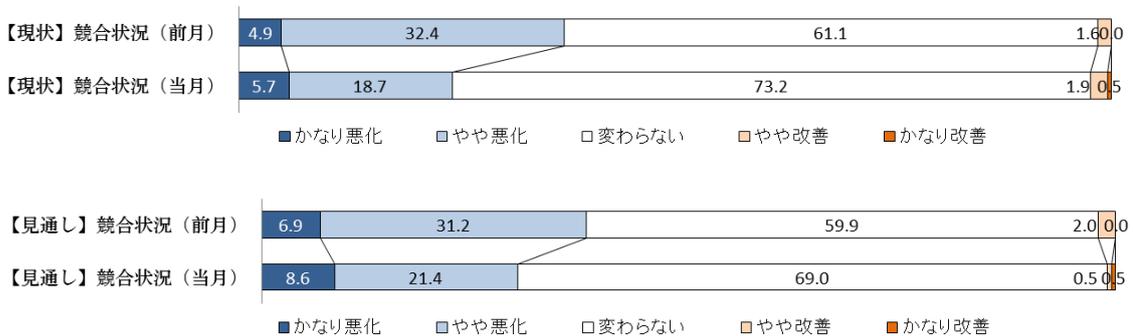
②消費者購買意欲 DI

現状判断は大きく改善をみせ、現状判断、見通し判断が同水準にまで改善



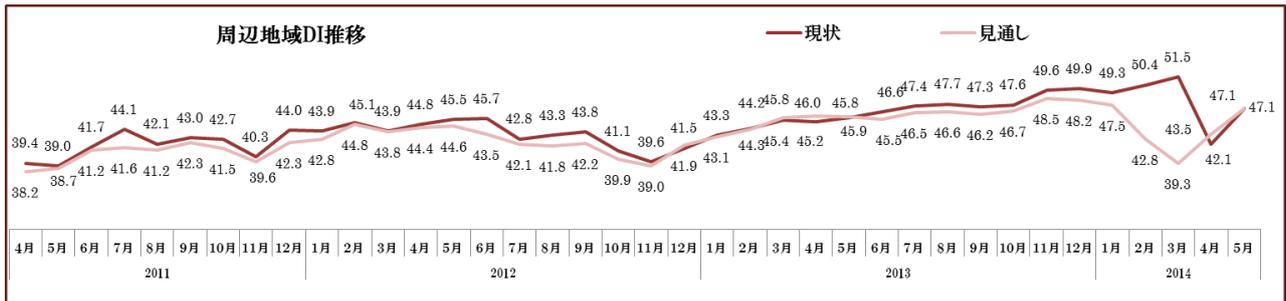
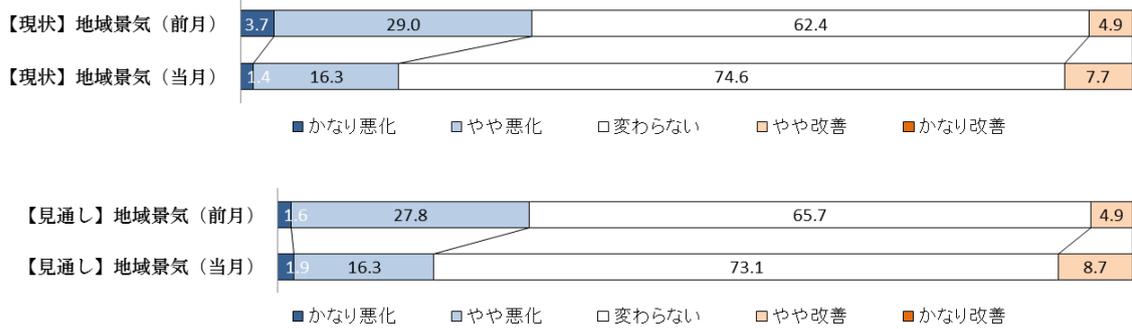
③周辺競合状況 DI

引き続き横ばい傾向が続き、改善の動きは見られず



④周辺地域景気判断 DI

現状判断は大きく改善をみせ、現状判断、見通し判断が同水準にまで改善

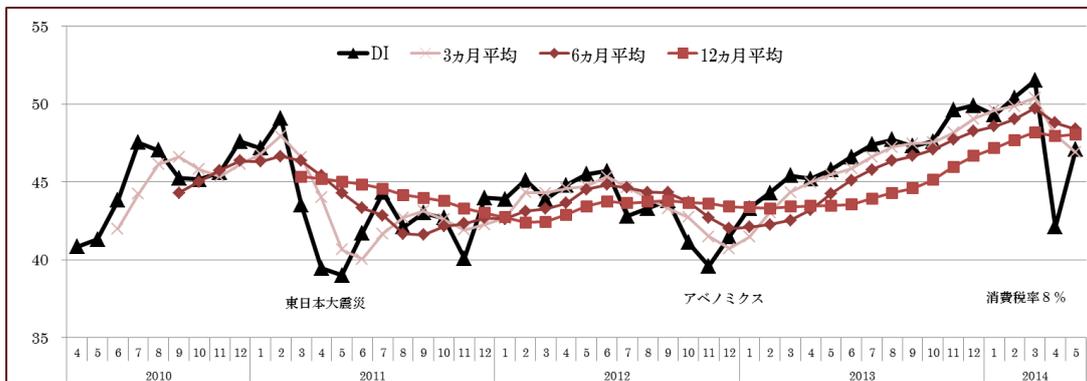


長期傾向（周辺地域景気判断 DI）

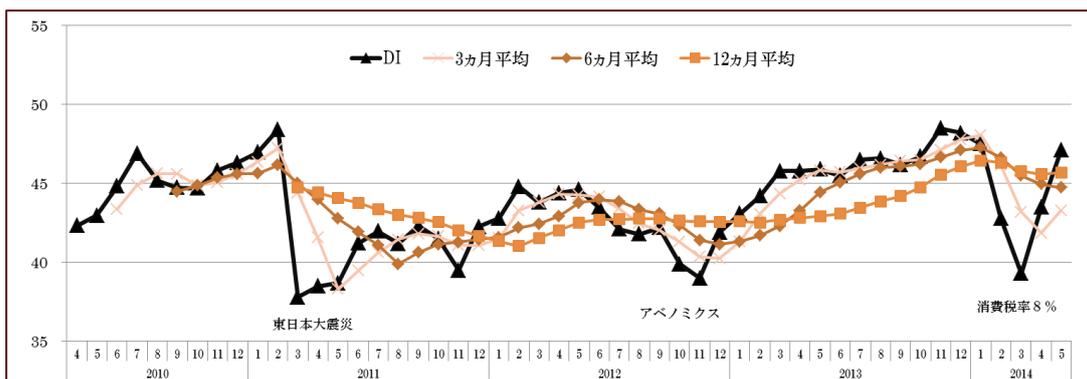
前月、消費税率引き上げの影響を受け大きく下落した現状判断は、当月は大きく改善し、中長期移動線付近まで回復をみせている。前月すでに改善していた見通し判断は、再び中長期線を上回る水準まで回復した。

長期傾向（12 か月平均）は完全に横ばいの推移となっており、現時点では方向性はみられない。中短期傾向は下向き化しており、今後さらなる回復基調となるかについては、しばらく動向を見極める必要がある。

現状判断（中長期傾向）



見通し判断（中長期傾向）



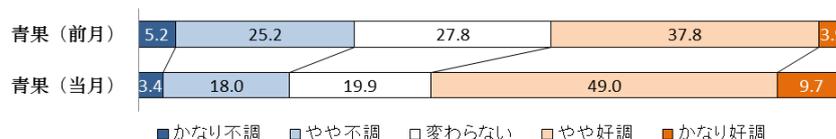
III. カテゴリー別動向

カテゴリー動向概要

前月に引き続き生鮮品は今月も好調となった。また、駆け込み需要の反動で前月不調であったカテゴリーでもやや改善をみせた

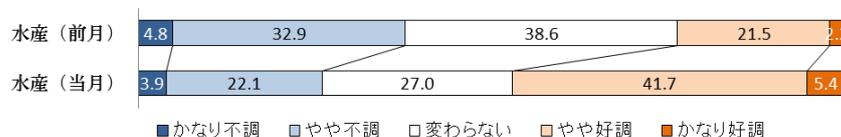
畜産は相場高に支えられ引き続き好調であり、豚肉をはじめ、牛肉、鶏肉など精肉が好調であった。青果と水産も相場高の影響を受け好調となっている。惣菜はGWでの販売が好調であったことや取組み成果により好調であった。日配は5月上旬全国的に気温が上昇したことで涼味関連が比較的好調だった。一般食品は、一部商品では駆け込みからの回復もみられるが、引き続き米や調味料が低迷した。非食品はたばこを中心として駆け込みの反動が残り、また他業態との競合も厳しくかなり不調となった

【青果】好調 DI:10.9（前月比+8.4）



	好調コメント	不調コメント
青果	相場高、野菜(サラダ、カット野菜)、果物、販促	果物

【水産】やや好調 DI:5.6（前月比+9.8）



	好調コメント	不調コメント
水産	相場高、刺身(まぐろ)、塩干、販促	不漁(仕入高、品不足)、(かつお)

【畜産】かなり好調 DI:20.6（前月比+9.0）



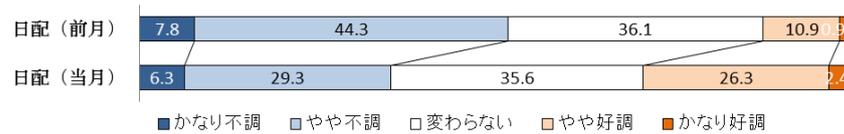
	好調コメント	不調コメント
畜産	豚肉相場高、牛肉、(鶏肉)、販促	競合の影響

【惣菜】好調 DI:8.8（前月比+4.2）



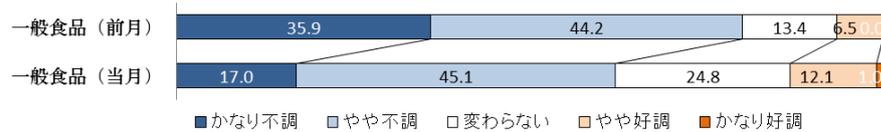
	好調コメント	不調コメント
惣菜	内食需要増、寿司、揚げ物、販促	他業態を含む競合の影響

【日配】 **やや不調** DI:-2.7 (前月比+9.2)



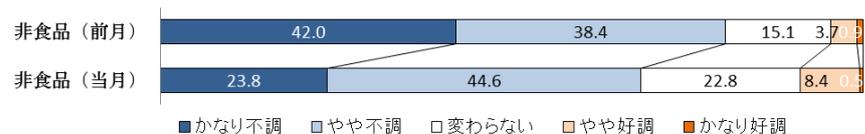
	好調コメント	不調コメント
日配	気温高による涼味関連、(冷凍食品)	乳製品、納豆、パン類、競合の影響、

【一般食品】 **不調** DI:-16.3 (前月比+11.1)



	好調コメント	不調コメント
一般食品	駆け込みの反動和らぐ	駆け込み需要の反動、米、調味料、飲料、競合

【非食品】 **かなり不調** DI:-20.7 (前月比+8.6)



	好調コメント	不調コメント
非食品		駆け込み需要の反動、競合の影響、たばこ

() は少数コメント

DI による好不調判断
 かなり好調：20 以上 好調：10～20 やや好調：0～10
 かなり不調：-20 以下 不調：-20～-10 やや不調：-10～0

2014年5月キーワード TOP3

1. 生鮮品相場高
2. 気温上昇
3. 駆け込み需要の反動

スーパーマーケット景気動向調査
 5月速報版集計 210社
 4月確報版集計 247社